

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	盛岡観光推進委員会事業			事業コード	1567
所属コード	0132000	課等名	観光課	係名	
課長名	村山 悦男	担当者名	加藤 俊男	内線番号	3728
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 まつり・イベント振興事業 (004-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰越 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 14 年度	
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

もりおか雪あかりを実施し、冬季の盛岡への観光客誘致を図るもの。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

東北新幹線の八戸延伸と「壬生義士伝」がテレビ・映画化されたことを機に、盛岡への観光客誘致を図るため平成14年度から事業を開始した。市民から盛岡に冬のイベントをとの声が上がり、市民参加の「もりおか雪あかり」イベントを平成16年度から実施している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

新幹線の八戸延伸を受けて北東北への関心が高まっており、入込数も微増～増加の傾向にある。年々イベントの参加者や雪あかりの設置数が増加し、イベントの規模拡大が図られているものの、近年、雪不足や温暖化の影響も受けており、内容の検討も必要となっている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が、何が対象か）

盛岡市民・観光客

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 観光客入込数	万人	459	444	472	466	490
B 来場者数	千人	40	45	46	79	80
C 参加団体数	団体	49	50	50	50	50

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

負担金の支出
実行委員会への参加
ポスター・チラシ作成
ボランティア募集
資材借上げ，購入等
雪像製作，雪あかり製作・設置
会場製作，運営，撤収

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 雪あかり製作数	個	49,543	46,168	48,000	39,428	50,000
B 参加ボランティア数	人	900	800	850	850	900
C 会場数	箇所	6	9	9	11	11

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

県内外からの修学旅行等による入込数が，少子化の影響により減少傾向にある中，その影響を最小限に抑える。

修学旅行等で訪れた生徒・児童がリピーターになるよう受入環境の整備を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 観光客入込数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	万人	459	444	472	466	490
B 来場者数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	千人	40	45	46	79	80
C 参加ボランティア数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	人	900	800	850	850	900

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	500	500	500	1,000
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	500	500	500	1,000
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	180	160	150	150
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	720	640	600	600
計	トータルコスト A+B	千円	1,220	1,140	1,100	1,600
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

観光客誘致により、観光関連産業の振興及び雇用の創出に結びついている。

② 市の関与の妥当性

市のイメージアップ及び観光客誘致促進を図るため、関与は妥当と考える。

③ 対象の妥当性

新幹線を活用した首都圏等からの観光客の入込を対象とすることが妥当と考える。

④ 廃止・休止の影響

観光客誘致に貢献している事業であり、冬季観光客入込数が減少する。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

他の企画やイベントなどとの実施も併せて継続していくことが効果的である。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

市民・観光客の豊かな生活に寄与するものとしての受益機会は、公平・公正であり適正である。

(4) 効率性評価

人員面については、現状必要最小限の人員で事業を実施している。

事業費については、企業協賛金の増加を図ることにより削減の可能性はあるが、現下の経済情勢は厳しい状況にあることから、当面は現状維持とならざるを得ない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

イベント規模の拡大

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

景気低迷による各団体からの協賛金の確保

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市民ボランティアによる雪あかりの作成など市民参加による事業として、冬のイベントを行っており、今後質の向上や参加者の増加などにより規模の拡大を図るなど、冬の風物詩として充実を図る必要がある。